

日本人に多い冠攣縮 器質的狭窄部における冠攣縮誘発は予後不良

虚血性心疾患の発症頻度は、一般に欧米人で高く、日本人を含むアジア人では比較的少ないとされています。しかし、冠攣縮性狭心症は欧米人より日本人で発症率が高く、アセチルコリン負荷による冠攣縮陽性率は約3倍と報告されています¹⁾。

冠攣縮性狭心症の予後は比較的良好とされていますが、冠動脈の器質的狭窄部位に冠攣縮が誘発される場合には、心血管イベントリスクが上昇することが明らかになってきました。

今回は、冠動脈の器質的狭窄の有無と冠攣縮誘発部位の予後との関連、その薬物治療ストラテジー、アダラートCR錠の有用性について紹介します。

1) Pristipino C, et al. Circulation 2000; 101: 1102-1108



冠攣縮が誘発される部位が、心血管イベントリスクを決める!



冠攣縮性狭心症の治療ストラテジー

- 冠攣縮抑制の第一選択薬として、Ca拮抗薬
- 器質的狭窄を伴うなら、Ca拮抗薬に加えて、抗血小板薬、スタチン、β遮断薬
- 器質的狭窄部位に冠攣縮が誘発されるハイリスク例には、さらなる薬物療法、冠動脈インターベンションの併用を考慮



熊本大学大学院 生命科学研究所 循環器内科学講師 海北 幸一 先生のご紹介

経歴

1991年(平成3年)3月 熊本大学医学部卒業
 1991年(平成3年)6月 熊本大学医学部付属病院循環器内科研修医
 1992年(平成4年)4月 熊本市民病院内科
 1992年(平成4年)10月 熊本赤十字病院内科
 1993年(平成5年)4月 新別府病院循環器科
 1994年(平成6年)4月 熊本大学大学院医学研究科入学
 1998年(平成10年)3月 医学博士の学位取得(熊本大学)
 1998年(平成10年)4月 熊本市民病院循環器科
 1999年(平成11年)7月 米国Vanderbilt大学メディカルセンター心血管部門 Research Fellow (Douglas E. Vaughan 教授)
 2002年(平成14年)4月 熊本大学病理学第二講座(現細胞病理学分野)助手
 2004年(平成16年)2月 熊本大学大学院医学薬学研究部循環器病態学助手
 2006年(平成18年)12月 熊本大学大学院医学薬学研究部循環器病態学講師
 2007年(平成19年)6月 熊本大学医学部附属病院循環器内科講師
 2008年(平成20年)10月 熊本大学医学部附属病院循環器内科医局長(2012年3月まで)
 2012年(平成24年)4月 熊本大学医学部附属病院循環器内科講師
 現在に至る

資格

2001年(平成13年)9月 日本内科学会認定内科医取得(第19284号)
 2003年(平成15年)3月 日本循環器学会循環器専門医取得(第13877号)
 2004年(平成16年)6月 植え込み型除細動器/ペースメーカーによる心不全治療施設認定医
 2006年(平成18年)1月 身体障害者福祉法第15条指定医
 2007年(平成19年)9月 日本内科学会認定研修指導医
 2014年(平成26年)12月 難病指定医
 2016年(平成28年)4月 日本心血管インターベンション治療学会認定医

所属学会

日本内科学会会員
 日本循環器学会会員
 日本心臓病学会会員
 日本心血管インターベンション学会会員
 日本不整脈心電学会会員
 日本血栓止血学会会員
 日本循環器学会九州地方会幹事・評議員
 日本心臓病学会特別正会員(FJCC)
 日本動脈硬化学会会員
 米国内臓病学会会員
 欧州心臓病学会特別正会員(FESC)